

COVID-19陽性患者もしくは疑い患者に対する手術時の感染対策Case Report集計結果(8月10日から8月16日回答分)

	症例数	手術	
COVID-19陽性患者	1	人工骨頭挿入術（股）	1

COVID-19疑い患者	7	帝王切開	3
		観血的整復術	1
		開頭手術	1
		コイル塞栓術（脳）	1
		頸椎後方固定術	1

術前検査で陽性で手術中止	1
--------------	---

事前シミュレーション実施	あり	4
	なし	3
	記載なし	0

自由記載

準備		あらかじめ持ち込むべき物品などが持ち込まれていなかった。
シミュレーション		以前、シミュレーションしていたので手術と麻酔は問題は発生しなかった。
感染		配偶者が陽性で患者が濃厚接触者に該当したため、疑い症例として対応した。（帝王切開術 2例）
病院のシステムの問題		疑い症例で誘発分娩を行なったができず帝王切開となった。病院のシステムの問題が浮き彫りになった。
手術中止例		耳鼻科の定時鼻内手術症例で、手術前日の入院時にLAMP法で陽性が判明し手術を中止とした。無症状症例であった。当院では入院患者すべてをLAMP法で検査しており、功を奏した。
陽性：人工骨頭挿入術（股）		90歳以上の方で、抗凝固薬を服用していた。全身麻酔による影響（患者の呼吸器合併症と医療従事者の感染リスク）を考慮して、一週間休薬して区域麻酔で行なった。一週間、手術を延期したことによるデメリットは発生しなかったが、手術日の決定、麻酔方法の選択に苦慮した。

手術室で気管挿管	3	McGrath	3
（喉頭展開1回で挿管）	(3)		
区域麻酔	4		

PPE	フェイスシールド	2
	ゴーグル	2
	シールド付きマスク	2
	記載なし	1
	N95	7
	サージカルマスク	0
	PAPR（動力付き）	0
	記載なし	0
	手袋2枚	7
	手袋1枚	0
	回答なし	0